

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)9年間を通して、確かな学力を育成する	(貫)子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善	・ICTの効果的な活用」の肯定的評価は、職員82%、生徒96%であり、職員も生徒もタブレット活用の効果を実感している。「三角ロジックの活用」は、職員アンケートは60%と前回よりは上がった。各教科において三角ロジックの活用場面を共有する等、職員の研修不足が課題である。 ・「授業では自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している」生徒は86%で、目標値を上回ったが、昨年度と比較すると低い結果となった。どの学年においても、考え・議論する姿が見られるようになってきたが、相手意識をもって、自分の考えを理由や根拠とともに話したり書いたりすることに課題がある。 ・「全国学力・学習状況調査」は、国語・数学とも全国平均値比が同等の状況であるが、本校の目標値を上回ることではない。課題として挙げられる自分の考えや問題解決の方法について、条件に応じて説明する力を定着させるため取り組んでいる。	・ICTの活用は、生徒の学習意欲の向上につながっている。キュビナの「ワークブック」やロイノートの「シンキングツール」などの活用事例の研修などを通してさらに効果的な活用を進めていきたい。 ・すべての学習活動において、引き続き、「三角ロジック」や広南中学校区「はなしたいわ」シートを活用し、根拠を用いた説得力のある主張になる表現活動を意図的に仕組む。また、表現することが苦手な生徒が取り組めるように「はなしたいわ」シートを提示し、自分の考えを支える理由のあげ方の例を示すなど、個に対応した支援を実践する。 ・引き続き、日常生活と絡めながら知識・技能を習得させるとともに、目的に応じて必要な情報を取り出してまとめ、筋道立てて説明する力を身に付けさせる授業の充実を図る。
		妥当性、信頼性を高めていく評価改善	・2学期の研究授業では、授業観察者の「評価シート」による評価は肯定的評価が100%であった。振り返りを活用しながら、つながりのある授業ができています。 ・「課題発見・解決学習」に対する生徒アンケートの結果は、肯定的評価の平均が87%であった。各項目ごとにアンケートを中間期と比較すると、「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』と思います」が89%、「授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのか考えています」が82%と5%以上低くなっている。こうした結果から、難しい課題に対して、粘り強く課題を解決しようとする意欲に課題があるといえる。「思考・表現」に関わる項目は84%と、中間期と比較し9%高くなり、取組の成果が出ている。	・各教科担任が、単元の中で振り返りを利用した授業をデザインしており、評価の信頼性は高まっている。この2年間道徳研究で培った「考え議論する」習慣を生徒に継続していくと、生徒の力もさらに伸びていくであろう。 ・「はなしたいわ」シートを活用して、理由や他者の意見をふまえて議論できる場面を意図的に仕組むことや、生徒が意欲をもって探究できる課題の設定を工夫して行うことを継続する。
**	(貫)礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展	・「生徒会、委員会の提案する活動に積極的に協力しています」に対する生徒の肯定的評価は81%(1年65%、2年80%、3年95%)と目標値(90%)を下回った。 ・「挨拶強化運動」や「三点固定」など、各委員会が毎月行う取組に加え、「届けよう、服のチカラプロジェクト」など生徒会活動を活性化させるための新たな取組を実施した。しかし、肯定的評価が目標値を下回った1年と2年は、自己評価が低いこと、生徒会活動に取り組んでいる自覚が薄いことが課題である。	・一つ一つの取組を確実に達成できるように、取組を厳選しながら計画する必要がある。 ・生徒一人一人が活躍できる場や機会を計画的、意図的に設定する。 ・生徒が意欲的に生徒会活動に取り組むよう、教師が意図的に働きかける必要がある。
		体力の向上	・新体力テストの本校の結果と県及び全国平均を比較すると、男女ともに握力は平均を上回っている。また、男子の結果は、50m走と立ち幅跳びにおいて、3学年とも平均を上回っている。一方で、上体起こしは、3学年とも平均を下回っている。次に女子の結果は、1年は全ての種目において平均を上回っている。しかし、2・3年は握力以外の全ての種目において、平均を下回っている。	・体育の授業では、腹筋などの補強運動や柔軟性を高めるためのストレッチを取り入れていく。また、体づくり運動を適宜取り入れ、その他の体力特性を改善していく。 ・保健の授業では、運動の必要性を理解させ、将来豊かなスポーツライフを実現できるように指導していく。
		不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	・「生活リズムを整えて生活している」に対する生徒の肯定的評価は78%(1年80%、2年67%、3年85%)と目標値(90%)を下回った。全ての学年で目標値を下回っており、計画的に課題に取り組むことや、就寝時間を守るなど、生活リズムが整わないに生徒が多いと考えられる。面談等による、実態の把握が必要である。 ・「将来の夢や目標を持っている」に対する生徒の割合は、84%(1年85%、2年73%、3年90%)と目標値を下回った。前回の結果と比較して、7ポイント低くなっている。勉強や将来について不安を感じる時期でもあるので、「総合的な学習の時間」を中心に、進路を見通した取組を進めていく。	・生徒の様子の変化に対応する丁寧な生徒指導、家庭との連携を行う。また、登校しにくい原因を多面的に分析し、登校できる環境を整える。 ・アメニティー環境推進委員会での情報収集や協議内容を全職員で共有し、全職員が生徒の様子を把握し、組織的に対応できるよう取り組む。 ・「総合的な学習の時間」を中心として、自分の夢や目標に向けて努力することの大切さを実感できるように指導を継続する。 ・ドリルタイムを活用し、個々の課題に応じた個別支援を強化し、学力向上に努める。
*	(貫)地域に感謝・貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し、地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実	・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあります」に対する肯定的な回答は80%と、目標値(90%)を下回った。「広南中にはいろいろな行事や取組を通して地域に貢献していると思いますか」に対する肯定的な回答は96%と高い数値であることから、「地域に貢献している」という意識はあるものの、そこから一歩進んで、「自ら地域をよりよくするために何をすべきか考えている」といった意識は比較的低い。	・「地域と関わりながら、地域について考え、課題を発見し、志を抱き、解決方法を考え、挑戦し、新たな志を抱く」といった広南中学校の「総合的な学習の時間」の学習モデルにそった指導を丁寧に行う。
		(貫)生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	・「防災について、家族や地域の人たちと関わりながら、自分の命は自分で守る力をつけている」に対する生徒の肯定的評価は100%であった。11月の「地震・津波の避難訓練」では、安全行動1ー2ー3の確認や防災学習講演会を行い、避難行動に対する意識を高めた。また、減災・防災イルミネーションや防災リーダー検定に向けた取組を行ったことで、「自分の命は自分で守る」ために防災や減災に取り組む意識を持つ生徒が増えたと考えられる。	・年間計画に沿って、地域と連携しながら引き続き各災害に対する学習や避難訓練を進めていく。事前・事後の指導を丁寧に行い、「自分の命は自分で守る」力の定着を図る。今後も、各教科の授業や生徒会活動等と連携し、自分で考えて行動する場面を取り入れる等、工夫して取組を実施する。
業務改善	(貫)働き方改革を推進する	長時間勤務の縮減に向けた業務改善	・「子供と直接関わる時間が確保されている」に対する職員アンケートの肯定的評価は92%であった。職員は生徒と丁寧に関わっている。 ・時間外勤務時間は増加している。行事に向けた取組、新しい校務支援システムの運用等に莫大な時間を費やした。	・行事計画の確認や校内企画委員会での検討を丁寧に行うことで、業務量のバランスを考えた適切な役割分担や、見直しを持った計画的な業務遂行ができるようにする。また、さまざまな取組についてスクラップアンドビルドを行う。

